

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 教育目標

- (開発創造)社会に関心を持ち、自分で創意工夫できる  
 (和衷敬愛)おだやかで思いやりをもって人に接することができる  
 (質実剛健)心身ともに充実して飾りがなく、強くたくましく日々を過ごすことができる  
 その精神のもと、自分の頭で考えることができる、自分を律することができる、自分の言葉や行動で表現することができる、信頼される生徒を育てていく

## 2 中期的目標

## 1 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校 (指示事項 重点1 公私の切磋琢磨による高校の教育力の向上)

- (1) 日々の授業が、「わかりたい」「できるようになりたい」と思う生徒の思いに応え、そのことで教員への信頼をかちとる場であることから、「教科指導」が最大の「生徒指導」であるとの教員の意識改革とその自覚に裏打ちされた教育活動を展開する  
 ア 授業において「ほめる・笑う・叱る」を教員は心がけ、生徒一人ひとりの学習意欲の向上を図る  
 イ 単元別テストや小テストなどを実施し、学期ごとに学習の定着度を確かめ、生徒のフォローを学年・教科担当者全体で行う  
 授業アンケート「生徒理解」を令和5年度に3.30とする(H30 3.11 R1 3.12 R2 3.22)  
 授業アンケート「生徒意識」を令和5年度に3.15とする(H30 3.06 R1 3.05 R2 3.06)  
 (2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる  
 ア 教員相互授業見学の意識の共有化を図り、教員の授業改善の結果、生徒の授業満足度を向上させる  
 イ 授業環境整備プロジェクトを今後発展的に委員会へと改編し、現行のICT教育の更なる推進について検討していく。また、グループ学習、発表(伝える)能力育成をめざす授業の推進を行っていく  
 ウ 「働き方改革」や健康管理の観点から、長時間勤務の縮減を図るため、校外活動時間の把握、全校一斉退庁日の設定とノークラブデーの徹底を図る  
 授業力向上プロジェクトを継続させ、公開授業の増加を図る  
 ICTを利用した授業、グループ学習の増加を図る  
 安全衛生委員会で「働き方改革」について検討を深める

## 2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校 (指示事項 重点3 豊かでたくましい人間性のはぐくみ)

- (1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」を身につけさせ、良き社会人の育成に取り組む  
 ア 挨拶を通して、人間関係の構築のきっかけとさせ、また遅刻者数を減らす  
 イ 生徒会活動の活性化、部活動の充実化を図る  
 ウ 国際交流を通して刺激を受け学習意欲を高める  
 遅刻者数の減少を図る(H30 2894 R1 2386 R2 1669 \*12月現在)  
 生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定率を令和5年度に80%とする(H30 75% R1 75% R2 76%)  
 部活動加入率を令和5年度に70%とする(H30 60% R1 62% R2 65%)  
 ニュージーランドと台湾、韓国の姉妹校への語学研修派遣及び相互交流を復活  
 卒業生の国際交流：ニュージーランドの姉妹校に卒業生を日本語アシスタントとして派遣を復活  
 英語アシスタントの受入れ：ニュージーランドの姉妹校から卒業生を英語のアシスタントとして受け入れを復活  
 地域の国際関連施設と語学を通じた連携を継続  
 生徒向け学校教育自己診断における国際交流関連の肯定率を令和5年度に90%とする(H30 95% R1 94% R2 63%)  
 (2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく  
 ア 目標達成に最後まで努力する態度を養い、一般入試に挑戦する生徒を増加させる  
 イ 生徒の進路実現を支援する計画・体制を確立して、職業観を育成し、目標達成に最後まで努力する態度を育む  
 ウ 進学講習を組織的に実施する  
 外部指標のある教材や模擬試験なども活用し、進学希望者に自己の学習定着度を見つめさせ、進学への意識を高めさせていく  
 スタディマラソン・進路夏の陣、冬の陣・共通テストチャレンジなど独自の取組みを継続させ、大学進学希望者の現役合格者を90%以上とする。  
 (H30 92% R1 92% R2 88%)  
 学校斡旋の就職内定率100%を維持する  
 (3) 安全で安心な学校づくりを行う  
 ア 人権教育推進委員会、及び教育相談委員会の充実(いじめの未然防止と早期発見、ケース会議の適宜開催)  
 イ 円滑な人間関係の構築を支援し他者を思いやる心を育てるため、探求やHRの充実を図る  
 ウ 支援の必要な生徒とその合理的配慮について実態の把握と教員の共通理解を促進、支援の充実を図る  
 安全で安心な学校づくりを行うための教職員研修を継続  
 要支援生徒の情報共有に向けたケース会議や教員研修の充実

## 3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校 (指示事項 重点8 地域の教育コミュニティづくりと家庭教育への支援)

- (1) 地域の信頼に応えることのできる学校であり続ける  
 ア 【学校を外に開く】地元の学校や地域施設等との交流を継続する  
 イ 【学校を外に開く】中学校訪問や中高連絡会において、生徒の出身中学校との連携を強化する  
 ウ 【学校を外に開く】住吉区との連携を継続し、教職員・生徒ともに防災等に対する危機管理意識の更なる深化をはかる  
 エ 【学校を内に開く】学校説明会などで本校の良さを知ってもらおう取組みを実施する  
 オ 【学校を内に開く】「ご来校(お電話)いただきありがとうございました」の姿勢を維持する  
 学校ホームページを使った情報発信やメールマガジンの発行を継続  
 学校説明会で生徒が活躍する場面の充実  
 保護者向け学校教育自己診断における学校評価関連の肯定率90%を維持する(H30 89% R1 94% R2 91%)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R2年度値〕	自己評価
1 教員一人ひとりが、 教員相互に高めあう学校 自分の力を発揮し、	(1) 日々の授業が、「わかりたい」「できるようになりたい」と思う生徒の思いに応え、そのことで教員への信頼をかちとる場であることから、「教科指導」が最大の「生徒指導」であるとの教員の意識改革とその自覚に裏打ちされた教育活動を展開する  (2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる	(1) ・単元が終わるごとに、科目担当者同士で授業の進度や深度などの情報交換を行い、生徒の学習定着度を共有する。 ・生徒の学習活動を肯定的に評価するとともに、興味関心を引き出すため ICT 機器等を活用した教材や指導法を研究する  (2) ・授業力向上プロジェクトを継続させ、「褒めあげシート」を活用し、授業改善に取り組む ・教員の健康管理の観点から、時間外在校等時間の多い教員に個別指導を行う	(1) ・授業アンケート「生徒理解」を3.25〔3.22〕 ・授業アンケート「生徒意識」を3.08〔3.06〕 ・ICTを活用した授業ならびに学習支援クラウドサービスの活用に関する教職員研修を学期に1回以上実施  (2) ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定率70%〔69%〕 ・時間外在校等時間の多い教員に毎月指導	
2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと 実感できる学校	(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」を身につけさせ、良き社会人の育成に取り組む  (2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく  (3) 安全で安心な学校づくりを行う	(1) ・遅刻者数を減らす ・部活動への入部を奨励し、生徒の自立心を育む ・国際交流の機会を充実させる  (2) ・新学習指導要領に向けて、シラバスの作成や新たなコースにおける取組みを検討する ・外部指標教材を活用し、学力の向上を図る ・進路希望を実現するために、最後まであきらめない意識を持たせる  (3) ・学年団、各分掌で生徒情報を共有する ・教育相談委員会を充実させ、SCとともに、生徒が相談しやすい環境作りに努める ・人権教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する	(1) ・遅刻者数3000名以下を維持〔2290名〕 ・部活動入部率を前年度以上とする〔65%〕 ・生徒向け学校教育自己診断「国際交流関連」の肯定率90%〔63%〕  (2) ・毎週の将来構想委員会等で、R4年度の実施に向けてシラバスの作成や新たなコースにおける取組みを決定し学校全体で共有していく ・4年制大学希望者の現役合格率を前年度以上とする〔88%〕 ・学校幹旋の就職決定率100%〔学校幹旋の就職者なし〕 ・生徒向け学校教育自己診断「キャリア教育関連」の肯定率78%〔76%〕  (3) ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定率62%〔60%〕 ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定率80%〔77%〕	
3 保護者や外部と手をつなぎ、 生徒のいる学校 その真ん中に	(1) 地域の信頼に応えることのできる学校であり続ける	(1) 【学校を外に開く】 ・部活動や国際交流、学校行事等を通じて、地元の学校や地域の施設等と交流を図る ・中学校、塾等の訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する  【学校を内に開く】 ・体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらう取組みを実施し、教員のみならず生徒も参加させる ・「ご来校（お電話）いただきありがとうございました」の姿勢を維持する	(1) 【学校を外に開く】 ・交流を3回以上実施〔実施せず〕 ・教職員向け学校教育自己診断「広報関連」の肯定率80%維持〔81%〕  【学校を内に開く】 ・体験入学や学校説明会において、生徒会役員やクラブ員などが全ての回で中心となって、運営できたか ・保護者向け学校教育自己診断「阪南高校に入学させてよかった」の肯定率90%維持〔91%〕	